



遷喬小だより

9月号③

学校教育目標 **自ら未来を拓き 心豊かに たくましく生きる子どもの育成**学校スローガン **TEAM遷喬 PRIDE遷喬 ~子どもも 教師も 地域も 伸びる学校~**

運動会に向けて すばらしい高学年の学び 6年生から5年生へ学びの引継~リレーで大切なこと~

9/6(水)に5・6年生はリレーの学習を行いました。特に5年生は、6年生のリレー練習を見学し、多くの学びを得ました。5年生の学びを紹介します。

- いつでも明るい雰囲気、最後まで手を抜かずに活動する。
- 自分から同じチームに前向きな声掛けをする。
- 失敗しても失敗した事をいかして、次も頑張る。
- 話を聞く時と活動する時のメリハリをつける。
- 真剣に、楽しく、笑顔で、一つのことをする。
- 周りの人の行動を見て、次、自分が何をしたら良いか考える。
- 他のチームも応援したり、練習で失敗しても「大丈夫。つぎ頑張ろう!」と言って、いい雰囲気にしたらいいと思います!
- 失敗しても一人ひとりが楽しく、明るく、盛り上げて、あきらめずに協力していきたい。
- 相手チームでも応援したり、助け合ったりしていきたいです。
- 友達が失敗してもマイナスの言葉じゃなくてプラスの言葉ではげましてあげる。
- 最後まで諦めずに一生懸命走っている人を、違うチームでも応援する。
- 本番ではライバルだけど、終わったら「〇〇すごかったね。」とか「〇〇めっちゃ早かったね。」とか言う。
- 練習のときは、ライバル関係なく、アドバイスをしたり、してもらおう。
- 自分のチームが失敗していても「大丈夫、切り替えて。」と声かけをします。
- 最後まで諦めない。負けてもくじけずに、次どうしたらいいか考える。
- 振り返りが大切。(違うチームのアドバイスや応援。走り終わった人同士の振り返り)
- 失敗は成功のもとだから、失敗を自分の中の振り返りにして、本番に頑張る。
- 運動の苦手な人も得意な人も、自分の全力を出せばいい。一生懸命することが大切だ。

その後、運動会スローガンも考えました。

高学年での学び合いが今年の運動会スローガンに反映されています。

低学年・中学年・高学年がそれぞれ、表現運動やリレー、学年種目に取り組んでいますが、結果だけではなく、取組過程を大切に、運動会ならではの意味を持たせたいと思います。

学び合って高めていく上記のような学習は、他の場面にも生かされると思います。

運動会本番では、「勝っても 負けても 一致団結 遷喬っ子」をご期待ください。



令和5年度新体力テスト結果

体力合計点で体力・運動能力を総合評価する「総合評価表（総合評価基準）」を用いて、体力合計点から体力・運動能力をA～Eの5段階で評価することができます。

5段階での総合評価は年齢別の相対評価です。

学校としては、A～Eの5段階評価におけるD率とE率が減少するとともに、A率とB率が増加することを目指しています。

この増減は、「(AB-DE)率」指標で簡単に捉えることができます。

**県平均上回るが
昨年より体力低下**

<R5 遷喬小 新体力テスト結果>

「(Aランク+Bランク)-(Dランク+Eランク)」児童の割合 ()内は昨年比

1年男子: 0.0%	1年女子: 20.0%
2年男子: 8.9% (▲19.0%)	2年女子: 5.9% (▲18.3%)
3年男子: ▲3.8% (○3.9%)	3年女子: 12.1% (▲18.2%)
4年男子: 4.3% (▲13.1%)	4年女子: 9.4% (▲39.0%)
5年男子: ▲18.2% (○7.6%)	5年女子: 21.1% (▲12.2%)
6年男子: 20.0% (▲9.0%)	6年女子: 12.1% (▲9.1%)

- ・令和5年度の新体力テスト県平均値は未公表（3学期公表予定）なので、令和4年度の県平均値と比較しました。
- ・「(Aランク+Bランク)-(Dランク+Eランク)」児童の割合は、5年男子以外は県平均（令和4年度）を上回っていました。
- ・本校児童の前年と「(Aランク+Bランク)-(Dランク+Eランク)」児童の割合を経年比較（同一集団）してみると、3年男子、5年男子以外は、昨年度よりも低下していました。

★本校の新体力テスト結果は、県平均を上回っているものの、新型コロナの影響やスマホ・ゲーム使用増加による運動量低下により、体力の低下が懸念されるところです。

スポーツ庁は、「全国的に令和元年以降、子供の体力が低下傾向にあり、感染症の拡大により拍車がかかった運動不足について、抜本的に改善することが必要」と捉えています。また、いわゆる「**ゴールデンエイジ**」（概ね幼児期から中学生まで）の運動習慣は、生涯にわたる体力・運動能力等の基盤となる極めて重要な要素だと捉えています。

このような状況の中、本校においても学校、家庭及び地域における運動機会を確保し、子供の運動習慣の形成や体力向上につなげていきたいと思えます。

今後に向けて【運動の習慣化】

- ・「楽しく学び合う体育授業」（運動会練習、陸上記録会練習も含む）を目指します。
- ・運営委員会と体育委員会がコラボして、縦割り班遊びを企画・実施していきます。
- ・木曜日のロング昼休みを「〇〇タイム」と体育委員会が命名して、学級遊びを推奨していきます。
- ・チャレンジランキング重点週間（学期に1回）を設定して取り組みます。
- ・運動週間カードに取り組みます。

ご家庭におかれましても、運動時間、朝食、睡眠時間、SNS利用等について、家庭生活を見つめ直しただけだと願っています。